江住小学校の思い出



昭和61年　9月28日

江住小学校150周年に寄せて

昭和50年度卒業生　藤岡　和香（旧姓　塩谷）

私が江住小学校に入学したのは昭和45年（1970年）。まだ木造校舎の頃でした。

学校に上がっていくコンクリートの階段は段差が所々違っていて、ランドセルを背負った１年生にはなかなかの運動だったと思うのですが、裏の幼稚園から見ていた黒っぽい壁の大きな校舎に通えるというううれしさからでしょうか、しんどかったという記憶がありません。校舎の中は少しひんやりとしていて、校舎をつなぐ部分にある簀(す)の子がカタカタいう音が印象に残っています。その後現在の校舎の建設が始まり、「どんな校舎になるんだろう」と楽しみにしながら通っていました。

３年生では里野小学校との統合があって人数が増えました。年度途中からは新校舎に移転することになり、それぞれが自分の机といすを新校舎に運びました。新しい校舎は白く大きく、どこもピカピカで「これが私たちの学校だ」と誇らしい気持ちで、新校舎での勉強が始まりました。

私たちの学年はやんちゃで先生方をびっくりさせることもあったと思います。昼休みには運動場で活発に遊んでいた記憶があります。一方、運動が苦手な私はベランダでのんびりしていることもありました。南向きのベランダからは潮岬までよく見え、気持ちよかったことを覚えています。

本格的な給食が始まったのもこの頃でした。リフトで上がってくるカートで給食を運び、配膳してみんなで同じものを食べる。今では当たり前のことですが、私たちにはとても新鮮なことでした。

５年生の時には100周年記念式典があり、記念誌も発行されました。現在併設されている体育館の建設も行われていました。私が在籍した６年間は、本当に新しいことが次々起こった時期だったと思います。

今年度で江住小学校の150年という長い歴史が閉じられるということをつい先日伺いました。

江住を離れてもう40年近くなります。今考えると、太平洋を望むすばらしい環境で小学校生活を過ごせたことは本当に得難い経験でした。当たり前にそこにあり続けるものだと思っていた江住小学校が閉校されるのはとても寂しいです。ここから巣立っていった卒業生にとっても在校生にとっても多くの思い出の詰まった大切な場所です。今回150周年を記念して、思い出を綴らせていただけたことを光栄に思います。

最後に今まで関わって下さった先生方、卒業生、在校生、地元の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

白く美しい江住小学校

昭和56年度卒業生　向井　太志

小学生時代の担任の先生をよく記憶しています。１年生田中先生、２・３年生塩谷先生、４年生撫養（むや）先生、５・６年山本先生。撫養先生以外はすべて女性です。さすがに１年生当時の記憶は薄いですが、田中先生は、気品があり優しく美人な先生（たぶんこの認識は間違っていない）。塩谷先生は、文字が綺麗でピアノも上手、でも怒ると怖い。撫養先生は、信州大卒のカモシカ研究をしてきた新任で、明るく長身の男前で、たばこが好き。山本先生は、生徒一人一人に親身に接してくれて、優しさと強さを兼ね備えた方でした。

私は生意気で負けん気の強さが全面に出て、周囲に感情を爆発させては、塩谷先生・撫養先生・山本先生に何度もきつく叱られました。ただ、先生方に絞られはしましたが、当時先生に対する反発心のようなものは不思議と持たなかったと思います。先生方は、私を怒鳴りつけて気勢で圧倒するといったところがあったかもしれませんが（笑）、愛情をもって、真剣に接してくれました。だからこそ、小学生だった私の心に先生方の言葉が響いたと思うのです。もちろん、叱られてばかりでなく、高学年時の担任だった撫養先生や山本先生には褒めていただくこともありました。特に山本先生が、終礼時だったかに私が作った詩が素晴らしいと言ってクラスのみんなに詩を紹介して下さったことは、今でも忘れられません。

小学生時代の一番の思い出は、ソフトボールクラブかな。監督はカッコいいおじさんの久山（くやま）先生。里野の上霞君がピッチャーで、私がキャッチャー。ファーストの勝山君がチームの主砲で豪快なホームランを打っていました。放課後に練習して大会に参加し、６年生の夏にはすさみ町の大会で３連勝して優勝。西牟婁郡の大会にも参加して２連勝。ちなみにこの年は，女子もキックベースボールで町の大会で全勝して優勝だったと思います。どの大会でも半袖半パンの白い体操服で参加し、胸に「江住小」と書かれた布を縫い付けていた記憶があります。郡大会でいわゆる野球のユニフォームを着ていないのは江住小学校だけだったけれど、なぜか恥ずかしいとか羨ましいといった感覚はなかったですね。

そのほかには、「ボギー大佐」という曲で、西牟婁郡の合同演奏会（田辺市）に参加したことも記憶に残っている思い出です。男性で渋い感じの稲生（いなぶ）先生が熱心に指導して下さいました。賞などはいただけませんでしたが、一生懸命に練習して演奏会のときは凄く緊張しました。私はたしか木琴を担当したような・・・。やはり、生徒みんなでやった行事が思い出として残るものですね。

江住小学校は、白い校舎と綺麗な体育館が２つ並び、グラウンドも広く、丘の上に聳える立派な学校という印象が強いです。居心地の良い大好きな場所でした。私の心の中で江住小学校はいつまでも輝き続けています。

校長室に現れた救世主

昭和58年度卒業生　鵜飼　晋也

江住小学校が創立150周年を迎えられましたこと、関係者の皆様、地域の皆様、卒業生として共に心よりお喜び申し上げます。

創立150周年にあたって、日本での近代学校教育制度について調べたところ、1872年の学制によって始まっており、その翌年（明治６年）には江住小学校が創立されていたということがわかりました。さらに、創立された1873年は、「廃城令」が公布されるなどの歴史的な出来事があった年でもあり、時代の移り変わりと共に、先輩方や私達や後輩達を日々見守り続け、毎年送り出しながら、日本史と共に時代を歩んできたことを思い描き、150年という歳月の重みと、私達の母校の偉大さを改めて実感しました。

在学中は、作文や感想文が大の苦手だった私が、今回このような貴重なご依頼をいただき、少し戸惑いつつも、40年ほど前のことを懐かしく思い、心が温かくなるのを感じながら筆（今の時代ではスマホのメモ）をとっています。ちなみに、私が引き受けるきっかけとなったのは、山田とき代さん（昭和39年卒業生）の学校百年史の文章を拝見させていただいたことが後押ししました。山田先生（ドカベン先生）は、私の幼稚園の先生であり恩師ですが、まさかその頃は同じ江住小学校の卒業生だとは思ってもいませんでした。（「ひかりのくに」の本に【うがいちんや】」と親しみを込めて書いてくれたのを思い出します）

江住小学校には、私が住んでいた里野から海岸線に沿って通る国道42号線を熊野交通バスに揺られ、絶景の枯木灘を窓から眺めながら毎日通っていました。青空に映える白い校舎から海が一望でき、広々としたグラウンド（100m走の直線コースがとれる）がある、私達の学び舎のことを思うと、楽しく愉快に過ごした小学生時代に瞬間的に戻ることができます。それと同時に、幼く無邪気な自分も含めた同級生11名と、お世話になった恩師の方々の顔と名前がすべて思い浮かびます。

山本ちづき先生（１年、５年、６年）、塩谷先生（２年）、七尾先生（３年）、平野先生（４年）、那須先生（保健室）、給食のおばちゃん方

日下くん、藤内くん、中川くん、細谷くん、向井くん、片倉さん、坂下さん、橋本さん、舟井さん、丸島さん　〔転校：田中くん、三ツ矢くん〕

恩師の中でも山本ちづき先生には、小学校に上がってすぐの１年生と、中学校に上がる手前の５年生・６年生の過渡期に担任の先生として、在学中の６年間のうち３年間も学ばせていただいた一番の恩師です。山本先生は正義感が強く、男女平等を説き、その時代の最先端の考え方を持たれた方でした。差別をしてはいけないというその頃の気持ちは、今も私のポリシーとして大切にしています。

少し緩い話になりますが、ある日の給食の食べ物に嫌いなものがあり、数人が昼休みの間に食べきれなかったことがありました。午後の授業になっても食べ続けていました

が、授業の邪魔にならないように校長室に移動することになりました。そのまま放課後を迎え、そろそろ帰りのバスの時間だなぁと考えていたところ、１人が牛乳を飲んでいるときに大きなくしゃみをして、見事に皆の給食に撒き散らしたことで、最後まで食べられなくなりました‥。食べ物を粗末にしないという気持ちが強かった昭和の時代でしたが、そのときばかりは、その同級生のことが救世主に見えました。

一番の思い出と言えば、なんと言っても修学旅行です。京都・奈良・大阪に連れて行っていただいたことは、とても良い思い出になっています。今も神社・仏閣・城が好きな私は、京都の金閣寺や清水寺、奈良の法隆寺や若草山、大阪城などに行くと、必ず修学旅行のことや同級生のことを思い出します。

卒業した後も、在学中のようにいつでも小学校に行ける気がしていました。でも、中学校・高校に進学すると、その頃は世界が変わったように感じられ、あれだけお世話になった先生方には結局、何十年もお会いできていません。

いろいろな出来事があった６年間も、学校関係者の方々や地域の皆様によって脈々と受け継いでこられた150年の歴史や伝統からすると、ほんの一瞬の出来事です。しかし、恩師の方々に深く学び、同級生達と共に過ごしたかけがえのない日々は、私自身を成長させると共に、後に社会人になってからの心の豊かさや、前向きな気持ちに繋がっていて、さらに今後の人生の糧となっていくことでしょう。

この度は、創立150周年という大きな節目に貴重な機会をいただきましたこと、ご関係者様に深く感謝いたしますと共に、江住小学校の卒業生の皆様、地域の皆様、ご関係者の皆様のこれからの益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。



昭和５８年度　修学旅行（清水寺）

小学校の思い出

昭和62年度卒業生　竹村　貴代（旧姓 加藤）

小学校の校歌、1番なら今でも歌えます！

私は昭和57年４月から昭和63年３月までの６年間を江住小学校で過ごしました。原稿のお話を頂き、約40年前の小学生時代に思いを馳せる良い機会になりました。

１年生の担任は塩谷先生、２年生七尾先生、３年生小林先生、４年生は笠原先生、５年生多田先生、そして６年生は知野先生でした。入学してから卒業を迎えるまで、年々全校児童数は減少し、４年生（笠原先生）、６年生（知野先生）時には、一つ下の学年との複式学級を経験しました。

始業前の10分マラソンから一日が始まり、冬も夏も半袖半パンで過ごしました。週に何回かは「朝学」といって、10分程度の学習時間があったり、授業が２時間終わった中間休みにも、全校でリレーや縄跳びなど、何か活動（運動）していた記憶があります。高学年のころからは、空いた教室をランチルームにして、全校生徒が１つの教室で給食を頂きました。月に１回、江須ノ川方面へのマラソン大会があり、人数が少ないながらも、順位がつくことへの喜びやくやしさを経験し、しんどいことをやり遂げる精神力が鍛えられました。また、当時一輪車が導入され、休み時間には必死になって練習しました。（数年前に乗ってみたら、なんと、乗れたんです！）

遠足は、春は潮岬の芝生へ、秋は清水山、夏の水泳授業は自然の海、どんなイベントも学年関係なく、全校児童が一緒になって活動していました。勉強も運動も、イベントも放課後遊びも全力で楽しんでいたと思います。ストレスという言葉など、知りもしない小学生時代でした。町内の小学校での陸上記録会や音楽会など、他校との交流もありました。人数が少ないため、そのような活動も全児童が参加し、言い換えれば苦手な子にも得意な子にも、やりたい子もやりたくない子も、全員に能力を伸ばせるチャンスがあったのだと思います。

学年を超えた友だちが兄弟姉妹のように、先生や親御さん、地域の方々がみんなの家族のように成長を見守ってくださっていたんだと、こういう機会を通じて実感することができ、感慨深い気持ちです。

校歌にあるような「世にたぐいなき人」にはなれませんでしたが、今こうして心身共に健康に過ごせる私に成長させてくれた江住小学校と地域に感謝しています。

この度江住小学校の閉校が決まったとお聞きしました。江住中学校に続いて小学校までなくなってしまうのはとても寂しいですが、校舎や運動場を何らかの形で残してくだされればうれしいなと思います。

江住小学校開校150年に当たっての思い出

平成４年度卒業生　前田　有希茂

まずは、江住小学校開校150年おめでとうございます。

このような大きな節目となる折に40代を代表して原稿を書かせていただけることを光栄に思います。

さて、私が江住小学校を卒業して早30年となります。振り返りますと江住小学校での思い出はここでは書き切れないほど沢山の良い思い出に溢れており、今となっては本当に良き場所で学べたのだなと実感しています。

江住小学校は先生・保護者の方々・大自然の三者に育ててもらう場でした。中でも大自然に囲まれた環境が、のびのびと私たちを育ててくれたと思います。

自然と言えば一番はやはり水泳の授業です。当時、私たちが在学する江住小学校の校舎にはプールがありませんでした。当然体育の授業のカリキュラムには水泳が組み込まれているのですが、プールの無い我々江住小学校の生徒は全員が海で水泳の授業を受けたのでした。江須崎が一望できる海岸で先生も一緒になって海で水泳…今となって思えば授業というより海水浴でした。（笑）プールより透明度の高い海での水泳は贅沢な話ですよね。（笑）

水泳に並ぶのは年間行事の山登り。校歌にも出てくる【清水山】山頂への登山です。

私の記憶が確かなら毎年秋の山登りがあり全校生徒で清水山に登ります。低学年の子たちは山頂まで登ることができないため途中の山道までの散策でしたが、４～６年生の生徒は引率の先生の案内を受けて全員で山頂を目指しました。全員が山頂に到着した後は神様が祀られている祠の近くで輪になってお弁当を食べたのですが、そこで食べるお弁当が最高においしかったのを覚えています。

こうして私たちが山登りを安全に行えるためには影で保護者の方々が登山の日に先がけて山道の雑草や立木を刈り取ってくれて生徒たちの安全を確保してくれるありがたい協力があってこその行事だったのです。

毎朝裸足で走ったマラソン運動や運動会での一輪車マスゲームの過酷な練習。思い起こせばキリがありませんが、一ついえる事は「人と人の繋がり・助け合い」をしっかり学べた小学校生活でした。

おかげで私は丈夫な体を手に入れることができました。このように小学校から培ってきた身体能力を活かすことができ高校在学中には陸上部に在籍し大きな大会に出場することもできました。これも江住小学校で学べたおかげだと思っています。

最後になりましたが、我々江住小学校卒業生「江住の学び子」は江住小学校の事を大好きな子どもばかりです。幾つになっても江住小学校の子なんです。

一輪車のように

平成７年度卒業生　杉浦　洪徳

江住小学校創立150周年、誠におめでとうございます。

私の息子も、今年から周参見小学校に通うようになりました。周参見小学校の一角にも江住小学校同様一輪車置場があり、「おっ、一輪車や」と懐かしくなり眺めていると、「江住小学校」と書いている一輪車を見つけました。

急に当時の運動会が見たくなり、父の撮っていた運動会のビデオを引っ張り出しました。校舎から校庭いっぱいに広がった万国旗や音楽が流れてきた時、懐かしさで胸がいっぱいになりました。30年若い私達小学生、保育園児、父兄、江住区の皆様が様々な競技で一生懸命頑張っています。

その中でも、私の記憶に鮮明に残っているのは一輪車パレードです。各々生徒が国旗を持ち、一輪車を漕ぐというだけでも大変なのに、風車、トンネル、大車輪、色々な技を先生のアナウンス、音楽に合わせて演技を披露していました。夕方５時近くまで練習をして、一輪車の乗りすぎで股ずれになったのを今でも覚えています。当時は「しんどい」「早く終わりたい」という気持ちしかなく、何でそこまで熱を入れていたのか分かりませんでした。しかし、パレードを終えると達成感があった事も覚えています。親になり、この年齢になって改めて見ると感動しますね。同時に、指導して頂いた先生方には感謝の気持ちしかないですね。

私の生家である潮音寺から開校して150年、沢山の卒業生を輩出した江住小学校の歴史にいよいよ幕が下ろされます。母校が閉校すると聞いて寂しく思うのは年齢を重ねたからでしょうか。

江住小学校が閉校しても、魂や思いは、周参見小学校で見た一輪車のように後世に引き継いでくれると思います。欲を言えば、いつか人口が増え子供たちが江住小学校へ通い、この一輪車が母校で活躍するのを待っています。

最後になりましたが、江住小学校の歴史を支えてこられた先生方、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。



平成１４年　運動会

江住小学校の思い出

平成10年度卒業生　森下　元喜

私が江住小学校にいた頃は全校児童数が約40人と少なく、特に私の学年は３人しかいなかった。しかし、生徒が少ないながらも友人たちと楽しく遊び、思い出がつまった小学校生活を送ることができた。その中でも特に記憶に残っている３つの思い出を語らせていただく。

１つ目は「朝のマラソン」だ。

毎朝、授業開始前に全校児童で校庭を素足で走った。夏は特に問題はなかったが、冬は地面が非常に冷たく、一歩踏み出すたびに足裏が痛かった記憶がある。ただ、あまりにも気温が低い日は靴を履いて走ることができた。また、玄関には大きな紀伊半島の絵が掲げられており、そこには生徒の名前が書かれた札が掛けられていた。走った距離に応じて、名札が紀伊半島を時計回りに動くシステムである。それを見るのが楽しみで、友達に勝つために一生懸命に走った。私は比較的足が速い方だが、おそらく６年間の「朝のマラソン」のおかげであろう。

２つ目は清水山である。

「朝夕あおぐ 清水山　すがたは高く かげ清く 動かぬ力 大空に 雨風しのぎ そびえ立つ」と毎日のように校歌で歌い、また、その雄大で美しい姿を校庭から眺めることもできたため、私と同様、小学校時代を振り返った際に思い出す卒業生も多いのではないだろうか。

実は小学校１年生の時の遠足で清水山に登ったことがある。小学校に入って初めての遠足だったのではないだろうか。急斜面で登るのが大変であった。山頂にはたしか神社があり、意外と開けていたと記憶している。他の山とは違い、江住のシンボルに登ることができたという特別感を味わうことができた。

翌年の遠足も清水山への登山が予定されていたが、ダニが発生しているとの理由から大鎌への遠足に変更された。そしてそれ以降、遠足で清水山に登ることはなかった。おそらくこれが最初で最後の清水山への登山になると思われる。清水山の登山は私の中では特別な思い出である。

３つ目は南弥右衛門翁の胸像である。

私はかくれんぼが大好きで、休み時間や放課後によくかくれんぼをした。校舎前には二宮金次郎像と南弥右衛門翁の胸像が並んで設置されており、それらは絶好の隠れ場所であった。しかし私は翁の像にあまり近づかなかった。その理由は、彼の眼差しが厳しく怖い印象を抱いたからである。その印象は小学校在学時に変わることはなかった。

しかし大きくなり、翁の功績や人柄について知り、彼の印象は180度変わった。和歌山県教育委員会発行の『わかやま何でも帳』において、和歌山県の偉人の１人として紹介されるほどで、“サンタマリアのレタス王”の功績は輝かしいものである。海外で働いた経験がある者として、彼のチャレンジ精神や故郷への思いには敬服する。私にとって、翁の像は帰省した際に訪れたい場所となっている。

最後に、母校が創立150周年の節目を迎えるにあたり、執筆の機会を頂いたことに感謝申し上げる。長い歴史とその中で数々の偉人を輩出してきた江住小学校の卒業生であるということは大変誇らしいことであり、今後もその名に恥じぬようにしたい。

タクシーのおじちゃんとの思い出

平成15年度卒業生　松本　麻緋（旧姓　辰己）



「お母さんは小学校、家から遠かった？」

今年５年生の娘にそう訊かれた時思わず笑ってしまいました。

タクシーで30分。それが私の通学でした。当時大鎌に住む小学生は私１人で毎朝タクシーが集会所まで迎えに来てくれるところから一日が始まりました。くねくね、でこぼこした道を登っては下って通った６年間。同じような景色でもあの角を曲がったら江住、あの林の隙間から海が見えることとか、きっと当時の私と運転をしてくれていたおじちゃんにしか分からない瞬間が沢山ありました。

おじちゃんと色んな話をしたり、道で栗を拾ったこともあります。学校が終わって一番に「おかえり」といってくれたのもタクシーのおじちゃんでした。雨でも寒い冬の日でもいつも「おはよう」「おかえり」と迎えてくれたおじちゃんが私はずっと変わらず大好きです。

今娘は全校生徒約500人の小学校へ通っていて学校の話を聞かせてくれますが、その全部が私の６年間とは違います。複式学級なんてもっての外で全校生徒が揃って給食を食べることもありません。運動会にくじ引きがあったり、夏休みリス当番があったり。

何より一番の違いは大きく広い海がないことです。夏になると江須ノ川に５・６時間目泳ぎに行ったその帰り砂のついたビーチサンダルをペタペタ鳴らして皆で歩いた光景は今も覚えています。あの頃当たり前のようにそこにあった海も生温い潮風も簡単に思い出せます。同級生がたった７人で、しかもそれでも大人数の学年だったと言うと本当に驚かれます。

今もこうして振り返っていると週２回ほどの全校朝礼で校歌のピアノ伴奏をしていた頃もありました。今でも指が憶えていて懐かしい気持ちになります。毎朝校庭を素足で走ったり、遠足はみんなで海を見ながらお弁当を食べました。田植えや稲刈り、夏は小学校でキャンプしたり、きっと今ではめずらしい事だらけの６年間でした。

そんな思い出の詰まった江住小学校が閉校になると聞きました。さみしい気持ちはもちろんありますが私の中の江住小学校はずっと変わらずにあります。当時の思い出を娘や息子に話している時間、私はあの頃に戻れているんだと思います。

江住小学校での思い出

平成20年度卒業生　楠堂　綾華



私は江住小学校を卒業して約14年が経とうとしています。そんな私も26歳。時の流れは早いものですね。江住小学校が創立150周年を迎えることは感慨深いものですが、併せて閉校すると聞き寂しい気持ちになりました。

江住小学校の自慢できるところといえば教室から太平洋が一望できるところ。海と山に囲まれた校舎、大きい運動場、体育館など本当に恵まれた環境で育ったなと実感しています。

小学生時代を思い返すと私は常に走っている陸上生活を送っていました。まず思い出すのは朝のマラソンです。登校してから体操服に着替えて10分間走。週１回は１キロのタイム走があったような気がします。授業前であっても関係なしに思い切り走っていました。マラソン大会では上位になれるよう必死になっていました。上級生になると上位５位までに入って駅伝チームの一員になれるよう頑張っていました。小学校５年生になると市町村駅伝大会に出場するメンバーに入れるよう朝夕、休日と毎日走る日々を送っていました。タイムが伸び悩み悔し泣きをすることも多々ありましたが、小学生から中学生までの５年間市町村駅伝メンバーの一員となれたことが今でも良い経験だったなと思います。

昼休みの全校生徒での皆遊び。人数が少なかったからこそ学年関係なく先輩方と遊べたり、交流ができたことが思い出でもあります。この歳になり身近な人や友達に地元のことを伝えると人数が少ないことやど田舎すぎることで驚かれることが多々ありますがこれはちょっとした自慢でもあります。ど田舎で育ったんです私！と胸を張れるんです。

１年生の時は和田先生、２年生の時は堅田先生、３年生の時は森先生、４年生の時は福島先生、５・６年生の時は小野先生と担任は毎年のように代わりましたが色んな先生の優しさ、指導のおかげでここまで成長することができ今の私がいるんだと思います。ありがとうございました。

最後に、江住小学校の卒業生として思い出を書かせてもらうことになり記憶は鮮明ではないのですが色々なことを懐かしく思い返すことができました。私達の思い出が詰まった校舎を有効に生かしていただけることを祈っています。

江住小学校ありがとうございました。

江住小学校での思い出

平成25年度卒業生　橋本　恭



私が江住小学校を卒業してから８年がたちますが、今回150周年記念誌に作文を載せていただくということで、当時のことを思い出していると、案外たくさんのことを覚えていて驚きました。

その中でも私が特に記憶に残っているのは登校した後すぐに行うマラソンです。千メートルから二千メートル程の距離を毎日グラウンドで走っていました。楽しかったというよりはむしろ辛かったという印象の方が強いですが、毎回先生がタイムを計ってくれており、終わりに自己新記録が出た人の名前を呼んでくれていたので、名前を呼んでもらいたくて必死に走っていました。また、運動会の時期になると、マラソンの代わりに種目の一輪車やダンスの練習が出来るので、心の中で少し喜んでいました。しかし12月頃になると、すさみ町内で行われる駅伝マラソン大会が近づいてくるため、普段よりも距離が増え、さらに雪が降るような寒さの中、半袖・ハーフパンツで走っていたので、とても大変でした。その後はいつも皆で手を震わせながら授業を受けていたのを覚えています。

そして、小学校生活の中でも特に記憶に残っている一番大きな出来事は、江住小学校と江住中学校の校舎が合併したことです。それまでは運動会などの行事の際にしか会わなかった中学生の人たちと毎日会うようになり、一緒に活動させてもらうことも増えました。

その活動の一つとして、私が小学校６年生の時、高速道路の出入り口の近くに出来る２つの橋の名前を江住小中学校で考えるというお話を頂いたことがありました。私はその時児童会に入っていたため、中学校の生徒会の人たちと一緒に、全校生徒が考えたものからいくつかに絞って候補を挙げるという作業をしました。候補を挙げる作業は、あまり他にはない名前を探すということが大変で、お昼の休憩時間をたくさん使ったことを覚えています。そしてその後さらに全校生徒にアンケートをとり、瑠璃橋と絆橋に決定しました。親柱にある銘板の字は中学生の人たちが書いてくれることに決まり、瑠璃橋の字を書くことになった姉が画数が多くてバランスも難しいと言ってとても苦労していたように思います。大変な作業は多かったですが、小中学校で協力しながらやり遂げたという達成感もありました。

しかし、最近、江住小学校が閉校になるというお話を聞きました。元々、少人数だったため、この先もずっと存続していくことは難しいとは思っていましたが、実際に閉校するとなるとやはり悲しく感じます。大好きだった場所がなくなってしまうという寂しさはありますが、６年間という短いようで長い様々な思い出の詰まった時間を江住小学校で過ごせたことを嬉しく思います。今は家族や友人と気軽に会うことが難しいですが、またいつか集まることができた時に江住小学校での出来事を忘れることのないように、たくさん思い出話をしようと思います。

江住小学校での思い出

令和２年度卒業生　吉田　侑月



私が小学校３年生ぐらいまで、中学生もいたので校内はすごくにぎやかだったのを覚えています。

そのころは外で遊ぶことが多くて、ジャングルジム・シーソー・ブランコでいっぱい遊んでいました。雨の日は中でトランプなどをしていたと思います。

中学校がなくなると体育館の中で遊ぶことが増えてきました。でも５年生になって、遊びも今までとは全然ちがう外での缶けりがはやりました。先生たちとも一緒に遊べて楽しかったです。

そして劇もするようになり、それも楽しかったです。劇は、七夕物語をけんゆう苑のおじいちゃんおばあちゃんに披露しました。これが、人前で披露する初めての劇でした。もっと劇をしたいなと思いました。その次が、「南弥右衛門物語」です。これは、私がすごく思い出に残っている劇です。新菜ちゃんが卒業する前の２月にビッグＵで劇を披露しました。最後に、校歌を歌っていると泣いてくれている人もいたのでやってよかったなと思いました。

その２月の終わりに、新型コロナ感染症の感染拡大のため突然学校が休みになりました。毎日行っていたときはいやになるときもあったけど、行けなくなると毎日が退屈になりました。

感染拡大がおさまらないまま、６年生になりました。学級数が減り、先生もだいぶ少なくなりました。周参見小学校にいってしまった子もいましたが、１年生が４人入ってきてくれて、全校で９人になりました。全国で休校が続く中、江住は登校日があり学校に行けたので、前と変わらず楽しかったです。野外学習ではどこにも行けないので、学校にみんなで泊まりました。教室で寝るのは少し怖かったです。最後のお別れ遠足で、ライオンのジェットコースターに初めて乗れたのもいい思い出です。劇もして遊んで勉強して、とっても楽しい１年間でした。

江住小学校が150周年で閉校になると聞いてとてもさびしい気持ちです。でも、思い出は消えないので楽しかったことを時々思い出してこれからもがんばりたいと思います。

子どもたちと共に

山本　ちづき（職員 昭和48年～59年）



昭和48年４月、２年生担任として紹介された入学式。以来11年間も江住小学校でお世話になろうとは・・・。

眼前に黒潮踊る太平洋。南向きの高台にそびえる３階建て鉄筋校舎。直進で100メートルコースがとれる当時県下有数の広い運動場。さんさんと降り注ぐ常春の陽光の下、子ども達は１年中半袖と半パン姿で駆け回っていた。大人の私でさえ、真冬に２階３階と上るに従って、上着を１枚ずつ脱いで入室するほど暖かさに恵まれた環境だった。

校舎裏にあった幼稚園（学校長が園長を兼務していた）から、４月当初親と離れることに泣き叫ぶ幼児達の悲愴な声が聞こえてきたが、やがて一月も経つといつの頃からか静かになり、歌声さえ聞こえるように変化していったことが思い出される。

里野の子ども達は一般乗客と共に熊野交通バスに乗降し、江住駅から歩いて運動場に上がって来た。後に統合した大鎌の子ども達はタクシーを利用しての通学となった。

花卉栽培が盛んだった里野の保護者達。日常は言うに及ばず、参観日や研究会等行事の度に四季折々の花を持たせてくれた。又、入学式や卒業式前日には、式場用にと丹精込めて育てた色取りどりの花々を惜し気もなく大きな花束にして車で届けてくれて有難かった。

昭和53年文部省（現文部科学省）指定全国道徳教育研究発表会当日、１年生の公開授業中のことである。突如吹いてきた風にあおられ、カーテンがロッカー上の花瓶を倒し、中の水が溢れ出てきた。想定外の現象に室内全体が「あっ」と息を飲む中、とりあえず花瓶を起こし、窓ガラスを閉めた。その時、１人の男子がすっと席を立ち、居並ぶ先生方の間をすり抜けると後ろに掛けていた雑巾を片手に床の水を拭きに来てくれた。一瞬の出来事ではあったが、彼に感謝しつつ悠然と構えて待ってくれていた子ども達と共に授業を再開するという一コマがあった。

後の協議会で「自分達の人数を遙かに超える大人達が注視する中、不測の事態にも怯まず、紅葉のような小さな手を挙げて次々発表してくれた子ども達に出会えただけでも今日の研究会に参加した甲斐があった。」「予想せぬ突風の中、さっと動いた男の子の行動の中にこそ我々が求める道徳的実践力を見ることができた。」と、咄嗟の出来事を研究会のテーマと関連付け、その価値を認めてくださった先生方の鋭い観察眼と深い洞察力、卓越した識見に思わず感服したことを覚えている。

毎朝元気よく「おはようございます！」と声を揃えて校舎内に入ってくる男子が２人。

１人は江住、もう１人は江須之川在住なのにいつも一緒に、例え周辺に人の姿が見えなくても、雨の日も風の日も２人のはつらつとした声は卒業する朝までずっと響き渡っていた。

やがて高学年ばかり担当するようになると子ども達の輝かしい躍進に驚嘆することが増えてきた。全国一茶まつり俳句大会入選、朝日新聞「子どもの詩」欄掲載、和歌山放送ラジオ番組「私の作文」放送、郡陸上競技大会優勝、絵画・社会・理科作品の県展入賞等。

圧巻は、自分達でデザインした表紙の多色刷りに挑戦し、各頁にも色刷りを加えて仕上げた文集が見事県コンクールで優良賞を獲得したことである。相互に切磋琢磨するうち学級全体がレベルアップし、いつの間にか仲間を気遣い、思いやる集団に成長していた。

「先生は何もしなくていいから。」との声かけだけで、卒業後の１日、楽しい親子遠足を企画してくれた頼もしいお母さん達がいた。

常時躍進する子ども達を起点に、物心両面にわたり支援してくださった保護者や地域の方々による熱い信頼や期待を得て、人として教師として大きく育てていただいた江住小。

150周年誠におめでとうございます！

そして長い間本当にありがとうございました。

江住小学校は金メダル

知野　光洋（職員 昭和61年～平成６年）



昭和61年、６年間慣れ親しんだ佐本小学校を離れ江住小学校に赴任し、平成５年度までの８年間お世話になりました。

その間、１年目は単式で、それ以降は複式学級で高学年を担任し、44名の子どもたちを送り出すことができました。

校長先生は、物静かでいつも穏やかに子どもたちを見守っていた中田美穂先生、朝一番に学校に来て子どもたちを迎えていた堺篤夫先生、にぎやかでいつも子どもたちに声がけしていた山本将文先生の御三方でした。

中でも堺先生とは、６年間ご一緒させて頂き様々な事を学びました。先生のことで今でもはっきり覚えていることがあります。

それは運動会当日、必ず上下真っ白な体操服を着て、子どもたちの出場種目になると本部の前に立って拍手を送っていたことです。

教頭先生は、歴史好きで広い視野で気遣いのできる上野宏先生、すさみ町初の女性管理職になった元気印の向井五美先生でした。

子どもたちはというと、どの子も怠ける事がない頑張り屋さんたちで、どの学習にしても運動にしても努力していた印象が強いです。

一番の思い出は、校歌の１番にある朝夕仰ぐ清水山への遠足です。１人で登るのでも汗びっしょりなのに、下級生の中にどうしても遅れてくる子がいて、６年生の体力のある２人と３人で、順番に背中を押したり腰に巻いたたすきを引っ張ったりして登り、頂上に着いたときには３人とも倒れ込みました。

その後理由と年度は覚えていませんが、遠足は太地に変更になりました。

そして奈良・京都・大阪への２泊３日の修学旅行。

奈良の若草山で手作りの弁当を食べ、シカと遊んで東大寺の大仏殿へ、京都では清水寺で音羽の滝で水を飲み、金閣寺、東映太秦映画村、夜の新京極で買い物を済ませいざ大阪へ。

大阪城、伊丹空港、エキスポランド、私自身が一番楽しんだ甲子園球場での阪神タイガース観戦。初めは静かに観ていたのに、いつの間にかメガホン片手に大声で応援していたのを覚えています。

当時江住小学校は、体力づくりに力を入れていて、毎朝始業前にマラソン、２限と３限の間に業間体育があり、リレー・一輪車・なわとび等年間を通して取り組みました。

一輪車は、運動会でマスゲームができるまでになり、児童一人ひとりが手作りの万国旗を掲げて入場し、アイドリングから片足走行、なわとびでの二重跳び、８の字走行、大車輪を成功させました。

この一輪車マスゲームは、すさみ町民運動会に招待され、わかもの広場で披露しました。

なわとびは、田辺市民なわとび大会に参加し、低学年は一重とびでの３分跳びに、中・高学年は二重跳びと三重跳びに挑戦しました。初めのころは歯が立ちませんでしたが、一輪車同様めきめき跳べるようになり、二重跳びで千回を超すまでになりました。

他にも町内ソフト・キックボール大会、町内駅伝大会があり好成績を収めました。

最後になりますが、忘れてはならないのが保護者の皆さんの協力です。全ての場面において縁の下の力持ちでいてくれました。

江住小学校の子どもたちみんな、保護者の皆さんは、私にとっての金メダルです。

心から、「ありがとうございました。」

江住小学校、150周年おめでとうございます。

150周年記念誌発刊と閉校に寄せて

村上　利博（職員　平成７年～16年）

すさみ町立江住小学校が、150周年を迎える節目の年、奇しくもその歴史に幕を下ろすことに際し、原稿依頼をいただき、私自身の小学校当時のことを思い出す良い機会を与えていただいたような気がしました。当時の思い出が走馬灯のように蘇ってきます。

私事ですが、江住小学校の卒業生として、また、教員を目指して母校での教育実習を経験し、そして、40代前半から後半にかけては、母校で教員として勤務もしました。

少子高齢化等の社会の変化であるとはいえ実際、出身校が統合して無くなってしまうことには、複雑で寂しさもひとしお身にしみます。

学び舎を少し振り返ってみたいと思います。

小学校の低学年の頃は、木造の校舎が高台にあるため、小さいながらも手前の急な石段で一休みして、「はあ、はあ、」しながら教室へ向かったことが記憶に残っています。

校舎の正面からは、いつ見ても変化のある飽きることのない太平洋の海原。正面玄関周辺には、どっしりと腰を据えた、ソテツ、タイサンボク、ビャクシンが植わっていました。背後には校歌に登場している清水山。

私にとって江住小学校での６年間は、この海や山が癒やしの場であり、貴重な自然体験の場でもありました。

夏には、海や川での水泳。秋には、清水山への遠足。海に入り貝を捕ったり、魚を釣ったり、山では、木の実を採ったり、昆虫を捕まえたり等々、どうしたら上手くいくか、学年の上下に関係なく、仲良く自然の中で学び体験したものでした。時間がいくらあっても足りず、夕暮れを恨めしく思ったのが、小学校の時期でした。

このような経験の場が、江住小学校のフィールドであった過去が、今でも嬉しく懐かしく思います。

また、教師を志して教育実習でもお世話になりました。約１ヶ月の実習で、教師として現場での基礎基本の事項（言葉遣い･挨拶･児童への接し方等々）を実践豊かな先生たちに教え込まれました。

当時、特に印象深かったことは、学校の実践で「お・あ・し・す」運動(挨拶運動)を行っていて、その流れだと思いますが、県の道徳教育指定研究校として研究発表会がありました。

私は、６年生のベテラン男性教諭の公開授業を参観しました。

何も分からない学生の自分でも、ねらい･発問･板書・児童の主体性、授業展開等全てが、目から鱗でした。今でも教訓にしているのが、板書の字の丁寧さと美しさです。非常に勉強になったことを覚えています。

先生方は常に機会があれば、日々積み上げられた数々の確かな教育実践を広く発信されていました。

江住小学校の実績が多くの皆様から惜しまれつつ、輝かしい学史の終止符となることは、誠に寂しい限りです。

しかし、校区の皆様方が脈々と築いてこられた校風と伝統は、卒業生をはじめ、保護者や地域の方々の誇りとして、心に深く刻まれるとともに、統合する周参見小学校に受け継がれるものと確信しています。

最後に、150周年記念誌発刊並びに閉校に当たりお世話いただきましたすべての皆様のご労苦に対し、深く敬意を表しまして、寄稿といたします。

思い出に感謝！

田中　徹（職員　校長　平成15年～18年）

すさみ町立江住小学校創立150周年 誠におめでとうございます。

私は平成15年４月１日付けで串本町立田並小学校長より江住小学校長として着任し、３年間お世話になりました。

教師生活で初めてすさみ町での勤務であり、かつて私の父親が校長を務めさせていただきお世話になった学校であり、また地域でもあるので、大変緊張したことを鮮明に覚えています。

着任して驚いたことは、その教育環境の豊かさです。直線100mはとれる広大な運動場、クスノキをはじめとする森のような大木の群れ、教育に情熱を燃やした城桂谷の記念碑、移民の父と慕われ尊敬された南弥右衛門の胸像、教育振興に私財を投入された藤本政太郎、五郎兄弟の碑、教育向上に資する木村奨学会、風通しの良い広い体育館、新しい25mプール、南向きの３階の鉄筋校舎。眼下に広がる雄大な枯木灘の景観などです。

明治５年の学制発布からわずか１年後の明治６年、江住潮音寺に開校して以来、地域の先人たちが営々と築き上げてきた教育環境、それを引き継いだ保護者・地域の方々、町行政の学校教育への期待の大きさなど、学校を取り巻く歴史がわかるにつれ、校長として責任の重さを感じずにはおれませんでした。

当時の職員体制は、校長、教頭、教諭（３～４名）、養護教諭、用務員でした。教頭をはじめ熱心で協力的な先生方に助けられた日々でした。着任した年の全校児童数は31名が最高で、翌年度からは30名を切りました。その後も減少の一途をたどりました。

「よく遊び、よく学ぶ」をモットーに、日々の学習、修学旅行、参観日、研究発表会、地域連合運動会、地域交流会、町内・郡陸上記録会、校内マラソン大会、町内駅伝大会など、先生方の指導を素直に聞き、粘り強く取り組む子どもたちでした。

中でも、朝の自主マラソン。始業前に裸足で運動場に全員集合し、ランニングが始まるのです。私の時はすでに伝統化しており、1度も「早く集まれ」と声かけした覚えはありません。この取組が土台となり、陸上記録会やマラソン大会等で好成績を残したのです。

江住地区連合運動会も蘇ります。エネルギー溢れる子どもたちを中心に、周辺地域の方々が参加してくれ大変盛り上がりました。園児のかわいい演技、全校児童の一輪車演技、キッズソーラン、３色リレー、地区対抗リレー、福引き抽選会も人気でしたね。

また、地域の祭りも忘れられません。丸いお月さまが東の空にゆっくりと昇ります。夕暮れ迫る学校に公民館からきれいな笛の音が流れてきます。子どもたちが祭りの練習を重ねているのです。

区長さんから祭りの招待を受け、職員とともに参加させてもらいました。すでに会場（公民館）には家中が留守になったかと思うほど大勢の方々が集い、ご馳走を前ににぎやかに談笑しています。顔に化粧をした法被姿の若者たちが、私にお酒を盛んに勧めてくれます。

酔いがまわりいい気分になった頃です。突然、若者数名に取り押さえられました。何が起きたか全くわかりません。たちまち顔中に絵具を塗りたくられたのです。(仲間として認められた証でしょうか？)

その後、私の化粧はどうなったか忘れましたが、子供神輿と一緒に地域を千鳥足で練り歩いたことも楽しい思い出です。

「人は環境で育つ」とよく言われますが、おそらく当地方有数の教育環境を誇る江住小学校で学び、この地域で育つ子どもたちは幸せだと実感させられた3年間でした。この原稿の最中、教育長さんから「江住小学校の閉校が今年度末に決定した。」との話がありました。

創立150周年をもって、江住小学校の歴史を閉じるのも時代の流れかと想うと胸にせまるものがあります。最後に、この教育環境を最大限に活かした跡地の活用を町当局に強くお願いして筆をおかせていただきます。お世話になり誠に有難うございました。

私の宝物は、母校江住小学校

福島　恵美（職員　平成18年～28年）



「恵美ちゃん、学校の先生になったらいいのに。」、「友達、仲間って言うのは・・。」、「自分の考えをしっかり伝えよう。」と、担任してくださった先生方。

江住小学校での素敵な先生方との出会いが、私を教職の道へと歩ませてくれました。

小学生時代は、外で元気一杯友達と遊んだのが一番の思い出です。鉄棒、ビー玉、ゴム飛び、鬼ごっこ。運動場にビー玉用の穴を掘って先生に叱られたのも思い出の一つです。放課後は運動場や公民館そばの公園で、学年関係なく、男女入り交じって遊んでいたように思います。その分、擦り傷や青あざだらけでした。

又、校舎建築や里野小学校との統合も心に残っています。

３年生までは木造の校舎で、４年生からは真新しい鉄筋校舎で学習しました。２階のベランダからみんなで四季折々の海をながめることもありました。

４年生の時に里野小学校と統合になり、同級生が３名増え、嬉しかったのを覚えています。今思えば、どちらも大きな出来事だったように思いますが、その分、「友達とは、仲間とは」を考える良い機会になったのだと思います。

卒業から30年後の平成18年に、教諭として母校江住小学校に赴任出来た時は、夢のようでした。着任式の時に校歌を歌って自己紹介をしたのを今でも覚えています。江住小学校での10年間は、やる気一杯の子ども達に恵まれ、充実した毎日でした。子ども達には、「自分大好き、友達大好き、学校大好き、地域大好きな子に育って欲しい」と願い、たくさんの地域学習に取組みました。米作り、地域発表会（歌や作文発表や地域の方との意見交流）、けんゆう苑訪問、熊野古道への遠足、郷土の偉人調べ、熊野学校、大鎌での宿泊キャンプ、祭り、もちつき大会等。どの学習も、子ども達が企画・準備・実施・振り返りを行う取組みでした。子ども達のやる気がどんどん増していくのを肌で感じ、子ども達の素晴らしさを再認識する毎日でした。また、地域学習には、地域の方々のご協力が不可欠で、どの学習においても一生懸命応援してくださいました。「学校は地域に支えられている」ということを実感した10年間でした。

校歌の学習をした折には、「小規模校であっても小さくおさまらず、やれば出来るんだという自信を持ち、他人に対する優しさや思いやりを身につけて欲しい」という願いが込められているという事を知る機会となりました。積極的でたくましく堂々とした若者に育った江住小学校の子ども達は正に、校歌の一節「世にたぐいなき人となれ」を実践していると感じています。

「陽気、やる気、根気、元気，勇気、時（時間）、そして感謝の気持ちを大切に」を合い言葉に子ども達と共に過ごした10年間は今でも私の宝物です。そして、母校江住小学校に勤務できたことは私の誇りでもあります。

ありがとう。江住小学校。

ありがとう　江住小学校

嶋田　正好（職員　平成23年～31年）



着任した年の始業式の日、４年生教室に斧君、山形君、阪本さん、橋本さんの４人がキラキラした目で可愛らしく座っていたのを昨日のことのように思い出します。

それから８年間、江住小学校に勤務しました。私が勤務をはじめた年は、ちょうど小学校の校舎に中学校が引っ越してきて、同じ校舎での授業がはじまった年でした。小学生は１階と２階、中学生は３階で授業をしていましたが、登下校や階段で中学生と言葉を交わす機会も多く、小学校と中学校で合同で行える行事は一緒にしたり、月に１回は合同の職員会議を行うなど、小学校と中学校の枠を超えて交流が出来たことは、貴重な経験となりました。

高台にある校舎の窓から見える雄大な太平洋。見渡す限りの水平線。授業中であっても思わず見とれてしまう素晴らしい景色です。江住小学校で長く勤務され、卒業生でもある福島恵美先生が教えておられた歌「学校坂道」の歌詞にある「この坂道登ったら　僕の学校が見えます　ジャングルジムに登れば海が　真っ青に見えます」まるで江住小学校のために作られたような歌を思い出します。

春の遠足は、毎年「長井坂」「里野」「江須崎」を交代で回りました。江住地区のことをほとんど知らなかった私にとってはどの場所も新鮮で、思い出深い場所となりました。特に長井坂は小倉さんと一緒に現地を歩き、歴史について色々と教えて頂きました。

秋には「江住」「江須之川」「里野」の３地区を回って歌や作文を発表しました。ミニ集会では、地域の皆さんに昔の小学校やそれぞれの地区の様子を教えて頂きました。

一番印象に残っているのは朝マラソンです。毎朝1000mのタイムを計測します。どの子も自分のベストタイムを更新すべく、全力で走ります。その後は50mダッシュ。私も一緒になって走りました。自己ベストを出した時の子どもたちの笑顔を見るのがとても楽しみでした。この毎日の積み重ねで、毎年行われる町内駅伝大会では小学生の部で６年連続優勝など輝かしい成績を残していました。和歌山県ジュニア駅伝のすさみ町チームには、毎年江住の小学生が参加していました。

夕方からの江住ジュニア陸上クラブの練習にも、コーチとして参加しました。小学生も中学生も昼の勉強やクラブ活動で疲れている中、夜間照明に照らされたグラウンドを励まし合いながら駆け回りました。

江住小学校を去って５年になろうとしています。今でも担任をした子どもたち、お世話になった地域の皆様、一緒に勤務した先生方の顔が浮かんできます。自分にとって、本当に充実した、かけがえのない８年間でした。

先日、山口校長先生から、今年度で閉校になるというお話を伺いました。これも時代の流れとして受け入れざるを得ないことなのでしょうが、残念でなりません。

しかし、江住小学校はその長い歴史に関わった全員の心の中に、ずっと素晴らしい思い出と共に生き続けるだろうと思います。

江住小学校、ありがとう。